

議員定数に関する調査特別委員会委員長報告

「議員定数に関する調査特別委員会」の委員長報告を申し上げます。

社会保障費が増大する等により糸島市の財政状況も極めて深刻な状況になっていることから、この厳しい難局を乗り越えるため、2元代表制の一翼を担う市議会といたしましても、持続可能な行財政基盤の確立に寄与することを目的として、本年3月25日に、当委員会を議会発議により設置しました。

当委員会は、議員全員で構成し、設置以来6回の委員会を開催して、糸島市議会議員の定数に係る調査・協議を積極的に行ってまいりました。

調査・協議内容につきましては、第1回の委員会で、糸島1市2町合併協議会での決定事項を確認し、「次回の選挙から選挙区は設けないこと」「特別委員会として今年中に結論を出すこと」「福岡県中部十市や全国の類似団体の調査を行うこと」を決定しました。

第2回の委員会では、福岡県内28市の人口・面積・職員数・議員報酬・議員1人当たりの市民数等を比較するとともに、福岡県中部十市の議員定数の見直しの状況等を調査しました。

その結果、議員1人当たりの市民数は28市中10番目に多いことや中部十市ではほとんどの市議会が議員定数の見直しを行い、20名前後となっていることが分かりました。

また、全国の9万人から10万人の人口規模の42市と比較を行った結果、議員数は多い方から28番目、議員1人当たりの市民数は多い方から12番目となっております。

こうした調査結果を踏まえて、第3回の委員会では、各委員から議員定数を削減するか現状維持とするかの意見を聞きました。そのなかで、「執行部も5年間で111人の職員を削減する計画となっており、議会も自ら身を削る必要がある」や「他の市議会の状況等を考えると削減するべきだ」など定数削減を求める意見が出される一方で、「面積が広い糸島市で、市民の声を市政に反映させるためには現在の定数は確保すべきだ」「一回オープン選挙をやって

みて定数を考えてもよいのではないか」など現状維持を求める意見も出されました。議論の方向性を決めるため、現状維持とするか定数削減をするかで採決を行った結果、現状維持が9名、定数削減が14名となり、議員定数を削減する方向で議論を進めることを決定しました。

第4回の委員会では、12月定例会で委員長報告を行うことを確認した上で、具体的な議員の削減数について議論を行いました。具体的には、奇数と偶数のメリット・デメリットや常任委員会の運営上何人が適当であるか等を議論しました。なかには「議員定数だけを議論するのではなく、議会改革を進めていけば自然と適正な議員数が出てくるのではないか」等の意見も出されました。その後、各委員から出された意見を、定数18人、20人、21人、22人の4案に集約して、次回の委員会で採決を行うことを決めました。

そして、第5回の委員会で、4案について採決を行った結果、定数18人が0、20人が0、21人が11名、22人が12名となり、定数22人が過半数となりましたので、

当委員会として次回の一般選挙から議員定数を 22 人とすることを決定しました。

なお、このことにより議員定数条例の制定及び委員会条例の改正が必要となることを申し添えます。

以上が、当委員会に付託を受けました「議員定数に関する調査」の経過と結果であります。